

# 平和がいちばん

2015年10月15日  
第100号

平和で豊かな枚方を  
市民みんなで作る会

04年10月



07年7月第2号



14年2月第80号



14年12月第90号



## 100号記念特集 私はこう考える－「市民の会」のこれから

たくさんのお力添え

ありがとうございます

鈴木 めぐみ

2007年6月に創刊したこの『平和がいちばん』も100号を数えることになりました。市民のみなさんにはなかなか届いていない議会や市の様子を、わかりやすく知らせたいと編むこの会報。

スタッフには伝えたいことがいっぱいあり、拙い紙面ではありますが、何より読んでくださる方がたくさんおられることに喜びを感じています。

それに毎月市民のみなさんのお手元まで地道に配達して下さっているみなさん、手塚議員をはじめ毎朝早くから駅頭で配布して下さる方々、熱い思いで寄稿して下さるみなさん、印刷や発送作業にたずさわっていただいている方々、本当にたくさんの方々の心からの情熱の「賜」がこの『平和がいちばん』です。みなさまに心よりお礼を申し上げます。

これからもたくさんの方に読まれ、活用され、ご意見を寄せていただける『平和がいちばん』でありたいと願っています。

ご支援をよろしく申し上げます。

オンブズマンの役割を担う

賀数 勝次

「市民の会」との関わりは約5年間だが、これまで会誌に掲載されてきたテーマを見ると、市民の立場から様々な問題を提起して行政を告発してきた事が一目瞭然で、その内容も時代の変遷が感じられる。首長や議会の勢力の変化とともに市民が不利益を被る政策が強要されると、市民との摩擦が生じるのは必然的なもので、自然発生的に反対運動として行政と対峙する。このような闘いは昔も今も本質的には変わらない。昔は一揆、今はオンブズマンとしての活動になる。しかしオンブズマンとしての役割、機能が市町村・都道府県・国政にまで連帯した運動が組織化されているとは言えない。そこには、それぞれの地域によって発生する問題や、受け取り方なども違ってくるので闘争の展開が異なる。現在のオンブズマン的な発想からすると、市民の平和と安全・安心の享受を求める権利は共通した認識として誰もが認めるところである。

今後も当会誌がオンブズマンの役割を担いながら更に発展することを期待する。

## 「カウンターデモクラシー」を駆使し 国政に市政に 発言を続けよう

柳下 祥一

安保法制は、圧倒的多数の民意を無視して、政権の無茶苦茶なゴリ押しで成立してしまった。この先は違憲訴訟や選挙などを通じて廃止に持って行く必要がある。我々国民は手を弛めることなく、この活動は継続しなければならない。

一方枚方市政に於いても、市長は替わったが多くの課題は残されたままだ。市政の主人公は市民である、との観点から今後もこれらの課題についての追及や提案は不可欠であろう。

また介護保険制度の改定に伴い、介護の世界はますます厳しい環境となっている。利用者の立場を尊重した地方自治体としての取り組みの強化が喫緊の課題であり、本会としても具体的な提言を進めてゆく必要があると思う。

本「市民の会」は発足以降9年を迎える。機関誌『平和がいちばん』も100号を数えた。市民運動としては輝かしい歴史と言える。今後も既存の政党・会派の活動の限界を打破して、常に市民感覚を最優先としてきた実績を生かすと共に、多様な民意を反映させるために選挙だけでなく、デモ活動や集会、インターネットを利用した取り組み、すなわちカウンターデモクラシーの手法を活用し、社会の木鐸として、市民運動のリーダー的立場を維持してほしいと思っている。

## N o b o d y i s R i g h t

田中 栄子

♪ 争う人は正しさを説く 正しさゆえの争いを説く その正しさは気分がいいか 正しさの勝利が気分がいいのじゃないのか …寒いだろうね その一日は… ♪ (中島みゆき)

先日まで流れていたテレビのCM。

そして今日は、

♪ 戦争を知らない子供たちさ… ♪ (杉田二郎)  
この歌を歌い続けたいのです！  
というCMが流れました。

メディアの姿勢が崩れつつあるなかで、敢えてメディアに「平和のために戦う人々がいる」ことをメッセージする力に希望をもって、私たちはこれからも「反戦を」、「平和を」追求するのです。

## わたしのこれから

柳井 直躬

市長が替わった。所属は大阪維新、その是非はともかくとして、枚方の行政が変わってほしいという市民の願いが実ったと肯定的に捉えよう。選挙公報で見る伏見新市長の公約はおおむね市民に納得できるものであったのでしょ。民間に比べて高い給与の市職員の適正化は、やる気を引き出す人事制度と同時に進めなければ意味が無い。単に公務員いじめに終わります。市中心部の賑わいについても、市全体の都市構想の議論がなされないまま進められるといびつなものになってしまいます。大阪維新流のせっかちさで進めると本来の目的を失ってとんでもない結果をもたらしかねません。

美術館を白紙に戻すといっても、今までの市議会の議論と結論をキャンセルするのですから、大きなエネルギーが必要な問題です。これには市民の後押しが欠かせません。

これからは、市長の議会での発言や施政方針演説をしっかり吟味して、行き過ぎを抑えてゆくことが市民の務めだと思います。市長ウォッチングを一斉に市民みんなを始めよう。

## 運動が市民自治をつくりだす

手塚 隆寛

美術館建設中止、見直しを求める取り組みを地域の方々と進めることで、枚方市の課題、運動の方向がより見えてきた。「市民無視の美術館建設」、公園を利用している市民の声を聞かずに、行政が一方的に地域に負担を押し付ける。口では「市民と共同して」などといいながらその実態は「市民は事後承認をせよ」。これが枚方市の現実だ。しかし市民は立ち上がった。1年を超える監視活動を続け、白紙撤回まで後一步のところまでこぎつけた。ミーティングの参加者誰もが自由に意見を述べ、情報を共有する。行動もみんなで決める。直接民主主義、市民自治を運動が作り出した。言葉だけでなく、市民が主人公の枚方市を作り出す。

戦争法・原発再稼働・沖縄辺野古新基地建設反対。市民の声を聞かない政府に、若者、母親、熟年、高齢者あらゆる階層が声を上げ続けている。

「民主主義はこれだ」との若者の声が多くの方々胸に響く。未来を決めるのは権力でなく市民だ。

## 会報をお届けする喜び

手塚 美子

「よう続いでるねえ」と配達ボランティアの方の声。最近では「政務活動費の記事おもしろいねえ」の声が届いた。読んで下さっているのが何よりうれしい。時には「会費払うわ」の声もかかる。毎月、印刷に午前半日、封筒詰め午後半日、配達をして下さる方へのお届けに3~4日、自分の担当地域への配達に10日ぐらい。朝の駅立ちは6ヶ所、近隣のスーパー前は3ヶ所。1カ月の半分以上は『平和がいちばん』を配ってきた。家の前でお掃除をしている人にも声をかける。市のあり方に「おかしいことはおかしい」とはっきりと言い切り、市民が考える力をつけ、行動するための情報提供の役目をこれからも果たしたい。

## “ひこばえ”の成長に努めます

大田幸世

“ひこばえ”は、樹木の切り株や根元から生えてくる若芽のこと。その若芽により新たな森林ができるようにするのが萌芽更新。身近な里山もこれにより維持されているという。樹木の生命力の強さに学び社会を、地域を再生したいとの信念をこの名称から日々感じている。

市民の声が反映されれば社会は住み良くなる。戦争にはならない。金より命が大切にされる。この「思い」が私の原点、そして原動力。この間の「安保法制（戦争法）」の制定、「原発への依存」の動き。どちらも市民の多数が反対している。その声をないがしろにする「国家」の仮面をかぶった多くの政治家達。許すことはできない。この現状が続く限り、市民の広場「ひこばえ」は、継続し、広がり、前進する。より多くの市民の「民主主義の発信場所」として。100号目発行に際し、力を合わせてきた方々と一緒に若芽の成長に役立つ「水」になりたいと切に思う。



14年10月第88号

## 戦争準備・反民主主義に抗って

浦野 宏

『平和がいちばん』は反戦争、反貧困、反民主主義、人権蹂躪に一貫して真剣に取り込んでこられた。しかし現状は悪化する一方、戦争の準備は急加速、原発の再稼働、輸出までです。子供の貧困は増え、民主主義は元氣なく、人権蹂躪事件も悲惨、金がらみが多い。金より大事な人間の心があることを皆忘れてる。

と言っても平和運動を諦めるわけにはいかない。枚方市は誇るべき非核宣言都市であり、平和宣言都市であり、平和の鐘を鳴らす。平和無防備条例実現運動もあった。

私たちは家庭生活、学校生活を見直す必要がある。家庭内の人権、平和は？ 学校では？ 人間を管理し、金や権力の鋳型にはめこむ競争にはまっていないか？ 金では買えない豊かな人間の心、自由、平等、博愛を育成し、人権、平和の享有を達成したい。家庭に平和なく、ええ加減な教育で、熾烈な生存競争社会に出る仕組みをしっかりと反省して、根気良く改善しなければと痛感している。

## 米バークレー市に学ぶ市民自治

井上 由美

アメリカ、カリフォルニア州の町バークレー市のような市民自治の町、市民参加で市民の声が市政に反映される町を実現したいとの思いでこの「会」はスタートしました。バークレー市では市民が議会で意見を言える場が保障されていて、誰でも（子供も）が日頃考えている意見を話せます。「会」が推薦した手塚たかひろ議員は議会改革をかかげて発言し続け、その成果として、市民が請願を出した時に常任委員会で陳述ができるようになりました。わずか10分と時間は限られていますが一歩前進です。市民が議会に参加して、介護現場のしんどい実態の訴えや教育現場の教師、子どもの生の声、働く人の厳しい労働実態の訴え、働くお母さんの保育を求める具体的な声など等を直接届けられたら、市民が何を望んでいるのかわかりやすく課題がはっきりしてくると思います。バークレー市では市民も参加して課題ごとの約50の委員会もあるといいます。一歩ずつこのような理想の町に少しでも近づけるよう市民の活動を広げていきましょう。

## みなさんと対話する素材です

松田 久子

100号と聞いて「会」のこれまでの活動を振り返ってみました。枚方市での無防備地域運動（平和条例制定運動）に始まり、清掃工場の官製談合問題の追求、原発事故後は反原発の運動も含めた様々な課題に果敢に取り組み、その運動の延長線上に、市長選挙や市議会議員選挙がありました。

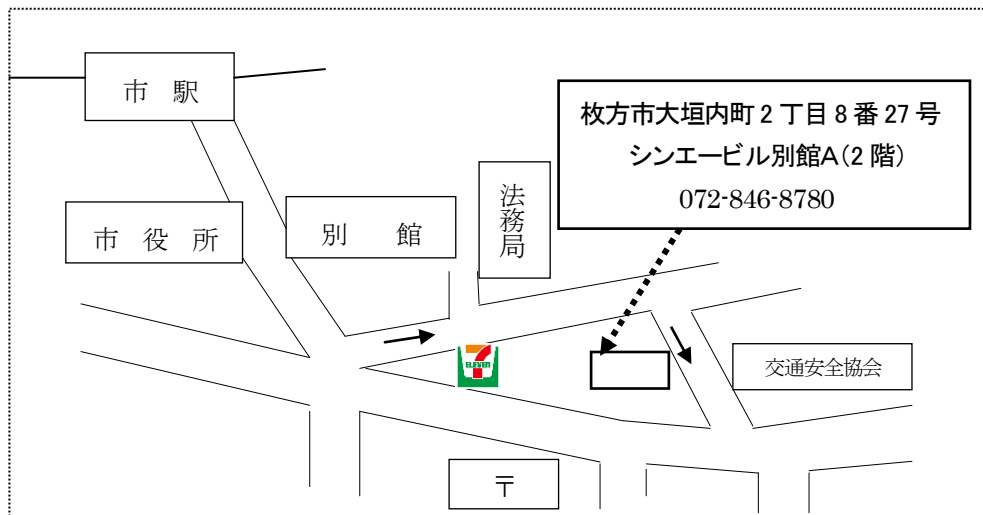
「会」から市議会議員を出した4年前からは、議会と「会」の距離が縮まり、風通しの良さを感じるとともに、議会の「おかしさ」も実感することになりました。

私は、昨年から今年にかけてこの会報を読んでいる多くの地域の方々とお話をする機会がありましたが、「会」の訴えに共感を寄せていただける声をいっぱい聞きました。なかでも「やっぱり平和がいちばんだね」「平和はたいせつ」という声は、「戦争法」が通った今、一層、重みを増して受けとめられます。そして「会」のネットワークの広さに驚くとともに、この8年間の地道な活動が、そしてぶれない姿勢が地域の方々の信頼を得ていることを改めて感じました。

今後、一緒に運動を作りながら、更に広い地域の方々をつながりながら「会」がめざす「市民の広場 - ひこばえ」が文字通り、市民の憩いと交流の広場になればと思います。



**「市民の会」事務所  
が移転しました  
電話番号も  
変わりました**



**対立する相手の立場を  
あなたは説明できるか**

則本 拓之

今年 8 月 15 日毎日新聞朝刊の「余録」から。

「日本で最大の不自由は、国際問題において相手（あいて）の立場を説明できない一事だ。日本には自分の立場しかない。日本がどうぞして健全に進歩するように、それが心から願望される。この国に生まれ、この国に死に、子々孫々も同じ運命をたどるのだ。明智（めいち）のみがこの国を救うものであることを、この国民がさとするように」。以上は、外交史家の清沢冽（きよさわ りょう）が終戦の年の元旦に記した『暗黒日記』の一部である。彼は終戦前の 5 月に病死した。

さて、国際問題はもちろん個人的なことも含めて、何人が対立する相手の主張を説明できるほど理解しようとするだろうか。私に自信があるわけではないですが、市民の間での議論がこの考えに近付くことを願っている。

**平和を願う気鋭の女性議員の輩出を！**

黒田 伊彦

「地方自治は民主主義を学ぶ最良の学校である」とイギリスのジェームズ・ブライスは言いました。民主主義発祥の地といわれる古代ギリシャのアテネでは、女性と奴隷には参政権はありませんでした。フランス人権宣言の「人は生まれながらにして自由平等の権利を有する」との「人」は男性のみでありました。

有名企業の社員であることを自分のアイデンティティ（存在価値）にしている男性よりも、地域に根づいた生活感覚をもつ女性の政治参加が求められています。地方議会での女性議員の割合は欧米では約 30%ですが、日本の全国平均は 8.8%、大阪府は 18.4%、枚方市は 25%です。

安倍政権の安保戦争法案に対しても「子どもたちを戦争に行かせない」と若い母親たちのデモや集会への参加が目立ってきました。女性の平和への希求力が状況を変えつつあります。

女性の地方議員を生み出す住民の力の結集点になることを期待しています。

〈訂正〉前号（99号）「手塚たかひろ議員日誌」の9月5日の文中、「通常 100 人に 1 人から 2 人の発症…」は誤りで、「通常 100 万人に…」に訂正します。

〒573-0027

枚方市大垣内町

2 丁目 8-27

シンエービル別館A

市民の広場“ひこばえ”

TEL&FAX

072-846-8780

**平和で豊かな枚方を市民みんなでつくる会**

共同代表 黒田 薫（平和都市枚方を考える市民の会）

鈴木めぐみ（親子のリズム遊び講師）

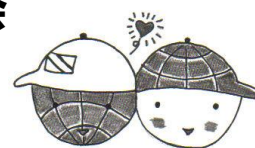
奥村 秀二（弁護士）

おおた幸世（枚方市平和無防備条例を実現する会）

事務局長 手塚 隆寛（枚方市会議員）

メールアドレス：[hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp](mailto:hiratkatasiminnokai@yahoo.co.jp)

ホームページ：<http://hiratkatasiminnokai.jimdo.com/>



「会」のシンボルマーク  
塔本賢一さん作